

## 2023年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任				
地理歴史	日本史探究	3	2年次	小林 琢				
選択するときの条件	この科目の選択者は、3年次においても継続履修してください。							
使用教科書	山川出版社 詳説 日本史探究(日探705)	使用副教材	第一学習社 最新日本史図表／詳説日本史10分間テスト 山川 日本史用語集					
科目の目標			道徳教育のねらい					
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。			よりよい社会の実現を目指す国家および社会の形成者としての態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
学習活動内容		育てたい6つの力（資質・能力）						
		1	2	3	4	5	6	
		主体的 学習力	基礎力	思考・ 分析力	発信・ 表現力	自己認知 ・協働力	計画 実行力	
第1部 原始・古代								
1	第1章 日本文化のあけぼの	◎	◎	◎	◎	◎		
2	第2章 古墳とヤマト政権	◎	◎	◎	◎	◎		
3	第3章 律令国家の形成	◎	◎	○	○	◎		
4	第4章 貴族政治の展開	○	◎	◎	○			
5	第5章 院政と武士の躍進	○	◎	◎	○			
6	第6章 武家政権の成立	◎	◎	◎	○	◎		
7	第7章 武家社会の成長	◎	◎	○	○	◎		
8	第8章 近世の幕開け	○	◎	◎	○	◎		
9	第9章 幕藩体制の成立と展開	◎	◎	◎	○	◎		
10	第10章 幕藩体制の動揺	◎	◎	◎	○	◎		
11	第11章 近世から近代へ	◎	◎	○	○	◎		
12								
13								
14								
15	ペア・グループワーク	◎			◎	◎	◎	
16	課題提出	◎	○		○	◎	◎	
17	考査		◎	◎			◎	
評価の観点		知識・技能	思考 判断 表現		主体的に学ぶ態度			
		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
評価の方法		次の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、5段階の評定をする。また、各観点については、到達度により総合的に評価し、A・B・Cの3段階で評価する。						
		A: 目標に対する到達度が70%～100%		B: 目標に対する到達度が45%～69%		C: 目標に対する到達度が0%～44%		
		教科・科目における各観点	授業における取組		定期考査など		ノートやレポートなどの課題	
		知識・技能	○		◎		○	
思考・判断・表現	◎		◎		○			
主体的に学ぶ態度	○		○		◎			

# 歴史総合 授業計画

授 業 計 画					実施状況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4	第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	1 文化の始まり	3	7	
		第2章 古墳とヤマト政権	ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	4 3	7	
		歴史資料と原始・古代の展望			1	1	
	5	第3章 律令国家の形成	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。	1 律令国家への道 2 平城京の時代	4 2	10	
		第4章 貴族政治の展開 前期中間考査(1)	藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。	1 摂関政治 2 国風文化	3 2	7	
		第II部 中世	律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。	3 地方政治の展開と武士	2		
	7	第5章 院政と武士の躍進	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。	1 院政の始まり	3	6	
		歴史資料と中世の展望	政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。	2 院政と平氏政権	3	1	1
	8	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	1 鎌倉幕府の成立	3	10	
		前期期末考査(1)	承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。	2 武士の社会	2		
	9	第7章 武家社会の成長	モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。	3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	3 2		
		南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	5 3 3 2	13		
後 期	10	第III部 近世 第8章 近世の幕開け	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	1 織豊政権 2 桃山文化	5 2	7	
		歴史資料と近世の展望			1	1	
	11	第9章 幕藩体制の成立と展開	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多角的・多面的に考察する。	1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	3 4	17	
		後期中間考査(1)	17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。	3 幕政の安定	4		
		第10章 幕藩体制の動揺	幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	4 経済の発展 5 元禄文化	3 3		
			農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。	1 幕政の改革	4	13	
	1		江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。	2 宝暦・天明期の文化	2		
	2		欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。	3 幕府の衰退と近代への道	4		
	後期期末考査(1)	化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	4 化政文化	3			
	3	第IV部 近代・現代 第11章 近世から近代へ	国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の掃蕩に至るまでの経過を理解する。	1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	3 2	5	
				105	105		